

○後藤守議長 次， 5 番鈴木二郎議員の発言を許します。

〔 5 番 鈴木二郎議員 登壇〕

○ 5 番（鈴木二郎議員） 5 番， 鈴木二郎でございます。議長にお許しをいただきましたので，通告順に質問してまいります。

最初に，地域医療についてお伺いいたします。当市の第 5 次総合計画の後期計画の策定に当たってのまちづくりに対する市民の意向アンケート調査結果によりますと，市が重点的に推進すべき課題として，医療福祉の整備を回答者の約 5 0 % の市民が上げております。さらに，取り組み施策の重要度として，医療機関の整備，緊急医療体制の充実については 8 8 . 4 % に達しており，市民の地域医療体制の整備充実に対する要望，声の大きいことが伺えます。

一方，これに対し，県及び当市の地域医療の現状を見てみますと，平成 2 3 年 1 0 月の財務省報告によりますと，県において人口 1 0 万人当たりの医師数は 1 6 6 . 4 人であります。ちなみに全国平均は 2 3 0 . 4 人となっております。このことは， 4 7 都道府県中 4 6 位と，最下位から 2 番目と全国平均を大幅に下回っております。常陸太田市においても，人口 1 万人当たりの指数は 7 . 6 4 人で，県内 4 4 自治体中 3 3 位，全国では 1, 7 1 8 中 1, 2 9 1 位と大変低い状況にあります。

さらに，医師数の推移を平成 1 6 年から平成 2 0 年の間で，近隣的那珂市，常陸大宮市と比較してみますと，常陸太田市は 4 5 人から 4 3 人と 2 人減となっておりますが，那珂市は 4 4 人から 5 1 人と 7 人増加し，改善されております。また，常陸大宮市においても 2 4 人から 4 4 人と 2 0 人増加しておりまして，県内ランキングも 3 3 位から 2 3 位と大幅に改善されております。

この比較結果は各市とも諸事情もあり，単純な比較はできませんが，これらの背景状況を踏まえて，やはり地域医療の整備を図ることは，高齢化社会を迎え，市民が健康で安心した生活が送れること，子育て支援を推進する上でも大変重要かつ必要と考えられます。この地域医療体制の整備充実施策について 2 点お伺いいたします。

1 点目は，医師確保及び医療機関の整備充実の対応の考えについてお伺いいたします。先ほど申し上げましたように，医師数，病院数とも不足の状況にあると思われます。医師については小児科医師，外科医師，産婦人科医師等が特に少なく，重点的な医師の確保支援が必要と思われます。また，病院については一般病院 5 施設を有しておりますが，小規模な病院が多く，総合的診断が可能な大規模な病院がなく，比較的大きな病院の誘致，整備が望まれるところであります。これら現状から，医師の確保及び医療機関の整備充実に対する施策，対応，計画について，どのように考えておられるのか，お伺いをいたします。

2 点目は，緊急医療体制の現状と充実対応についてお伺いをいたします。後期基本計画の市民アンケートにおいて，救急医療体制の整備充実を推進することが，今後のまちづくりの重要な施策として上げられております。救急医療体制の整備は，高齢化時代を迎えて，心筋梗塞や脳卒中等の心疾患や脳疾患の増加傾向に対する対応施策としても，その整備充実が望まれるところであります。医療機関としても，当市における 2 次医療機関は 1 病院のみであり，計画的な救急医療関係の整備充実が大変重要な課題であります。

このようなことから、救急医療体制の現状すなわち救急搬送の件数、疾患内容、搬送医療機関、受け入れ体制状況、課題等の現状と今後の充実対応についてお伺いをいたします。

2点目ではありますが、常陸大宮済生会病院の運営状況についてお伺いをいたします。常陸大宮済生会病院は県北西部地域住民の医療充実を目的に、平成18年7月に県と済生会及び常陸大宮市、常陸太田市、那珂市、城里町、太子町の5市町がかかわり設立された、いわゆる公設民営方式の病院であります。

病院の運営に当たっては、各市町村が受診患者数の比率割合に応じて運営補助金を出資して、財政支援を行っておりますが、当市においても金砂郷、水府、里美地区の住民の受診者を対象として補助金を出資し、財政支援を行っているところであります。このことから、当市としても病院の受診、診療状況、経営状況、あるいはまた課題、支援施策等についての確認、把握と、充実策、あるいはまた自立化等の今後のあるべき方策について審議、検討して、提案することが必要と思います。このような観点から、運営状況について2点お伺いをいたします。

1つ目は、病院の診療実績、収支、経営状況、補助金等の推移、現状についてお伺いをいたします。

2つ目は、医師及び診療科目等の充足状況、課題等の状況についてお伺いをいたします。

次に、ジオパーク活動事業についてお伺いをいたします。

初めに、ジオパークとは、ジオロジーすなわち地質学のジオですね、これと公園のパークを組み合わせたいわゆる造語でありまして、大地の公園あるいは大地の遺産などと表現されており、貴重な自然遺産の地形や美しい景観などを保全しながら、公園として活用し、観光や教育に役立てて、地域の活性化を図る取り組み、活動であると言われております。

県北地域におけるジオパーク活動は、平成22年2月に茨城大学が事務局となり、常陸太田市、常陸大宮市、高萩市等、県北地域の7自治体とグリーンふるさと振興機構から成る茨城県北ジオパーク推進協議会が発足し、ジオパーク認定に向けた取り組みが開始され、当市もこれに参画し、推進されているとのことであります。地域の新しい観光づくりと地域振興、活性化に新たな手法として有効と言われており、その取り組みが注目されております。このジオパーク活動事業について、2点お伺いをいたします。

1点目、当市におけるジオパーク事業の推進状況についてお伺いをいたします。生涯学習や観光資源開発など、地域の活性振興のジオパーク事業に対する市民の理解、認識と具体的な事業の推進取り組み状況についてお伺いをいたします。

2点目は、茨城大学や筑波銀行等において、ジオパークを利用し、県北の観光振興や地域活性化に向けて、ジオサイトやジオパークをめぐるジオツアーやジオサイトの開発と認定を進めるとしておりますが、当市においても事業の具体的な取り組みが望まれますが、これらの今後の推進等について、4点お伺いをいたします。

1つ目は、ジオポイント及びジオサイトの調査並びに登録状況についてお伺いをいたします。

2つ目は、ジオパークの活用についてどのように考えておられるのか、お伺いをいたします。

3つ目は、ジオツアー参加者を安全に先導し、ジオパークの見どころを解説するジオツアーの

案内人をどのように育成していくのか、お伺いをいたします。

4つ目は、ジオパーク活動を広く市民の皆さんに理解していただき、生涯学習や観光資源、さらには地域の活性化につなげるためのPR、広報、これらの活動の取り組みについてお伺いをいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。ご答弁よろしくをお願いいたします。

○後藤守議長 答弁を求めます。保健福祉部長。

〔塙信夫保健福祉部長 登壇〕

○塙信夫保健福祉部長 医療体制の整備充実のご質問にお答えをいたします。

まず、市内の医療機関の状況についてでございますが、全体で18の医療機関がございまして、常陸太田地区に12、金砂郷、水府、里美地区それぞれ2つずつとなっております。初期の医療体制としては身近な地域で受診できる環境が整っているものと考えております。また、時間外の診療につきましても、それぞれ医療機関が地域のかかりつけ医として、医師が存在するときには診療に応じるほか、休日につきましては、休日当番医の制度を設けて対応しているところでございます。また、高齢者等の交通弱者の利便性を高めるために、患者輸送バス事業、それから指定管理制度による診療所の開設などによりまして、初期医療体制の充実に努めているところでございます。

症状が重い方への対応につきましては、6市町村で構成されます常陸太田・ひたちなか保健医療圏におきまして、各自治体や中核病院がともに連携する中で、重症患者などへの対応を図っているところでございます。このように、市内の医療機関と市外の総合病院との医療機関がお互いに補完する医療体制が作られておりまして、その一層の充実に努めているところでございます。

しかしながら、議員ご発言のとおり、医師の数、医療機関の数については、本市を含めまして茨城県全体が全国の水準を下回っている状況にもあります。この課題に対しまして、単独の自治体で解決することは非常に困難でありますことから、医療体制連携のために組織されております2次保健医療圏連絡協議会、さらに県北西部地区の地域医療推進協議会、さらにへき地医療対策協議会など本市の関係する各種協議会での要望活動や、県医療対策課、医師会との連携、協力のもと、医療体制全般の充実に向けまして取り組んでいるところでございます。

また、医師確保及び医療機関の整備に関する計画に関しましては、茨城県、市町村、医師会などの関係機関の検討、協議により作成されております茨城県保健医療計画、地域医療再生計画、茨城県へき地保健医療計画など各計画及び市の総合計画に基づき、医療体制の充実に向けて事業を推進しているところでございます。今後も県及び医師会等との関係団体との連携調整を図りつつ、一体となって課題解決に向けて取り組んでまいりたいとこのように考えております。

次に、常陸大宮済生会病院の運営状況についてのご質問にお答えいたします。お尋ねの各状況につきまして、確認できた内容を平成21年度から23年度までを説明したいと思います。

まず、診療実績でございますが、平成21年度は入院、外来の延べ患者数が10万950人、本市からは8,246人となっております。22年度は9万8,103人のところ、本市からは7,972人、23年度におきましては10万4,066人、本市からは7,537人の患者数となっております。

ります。全体では10万人前後の患者がかかっているという状況であります。本市からの患者数は少し減少傾向にあるのかなというところでございます。

次に、経営の状況でございますが、平成18年の開設以来、経営改善に取り組んでおりますが、なかなか厳しい状況が続いているというところであります。運営補助金等の推移であります。算出に当たりましては、全体運営費の運営補助金を1億円としまして、済生会病院支援のための組織、地域医療推進連絡協議会を構成する常陸太田市を含む5市町で、入院患者の割合に応じて負担することになっております。本市が支出しました各年度の負担額は平成21年度472万円、22年度646万円、23年度532万円となっております。補助総額の5%から6%を負担しているという状況であります。

続きまして、医師診療科目の充足、不足状況でございますが、常陸大宮済生会病院における常勤の医師数は、直近の資料では14名、診療科目は内科、循環器科、消化器科、小児科、外科、整形外科の6診療科であります。充足または不足の状況でございますが、全ての診療科目で充足されている状況ではないとのこととあります。特に、救急医療の観点から、常勤医師のいない呼吸器科の充足が最優先課題であるとのこととあります。当然医師確保に向けて精いっぱい取り組んでいるところでありますが、医師及び診療科目の充足は大変厳しい状況にあるとのこととあります。

今後、常陸大宮済生会病院支援のため、関係5市町で構成されております地域医療推進連絡協議会を基本としまして、健全な運営が図られますよう、引き続き支援してまいりたいと考えております。

○後藤守議長 消防長。

〔福地壽之消防長 登壇〕

○福地壽之消防長 救急医療体制の現状と充実対応についてのご質問にお答えいたします。

当市における平成24年の救急出動件数は2,020件で、医療機関に搬送した件数は1,823件、1,864人となっております。病院等の受け入れ状況でございますが、救急医療体制別に見ますと、1次医療機関に対し911人、2次医療機関に724人、3次医療機関に229人となっております。搬送医療機関別でございますが、市内の1次医療機関の17の病院等に588人、2次医療機関の1病院に395人を搬送し、市外につきましては3次医療機関へ229人を、それ以外の1次、2次医療機関へ652人を搬送しております。主な疾患別で見ますと、心臓疾患等の循環器系が122人、脳疾患の傷病者が136人、その他の疾患が1,606人でございます。

受け入れ体制の状況や課題でございますが、受け入れ医療機関が速やかに決まらない事案があることから、茨城県では平成23年4月から、救急搬送受け入れの実施基準を策定し、中等症以上の傷病者の受け入れ病院を指定するとともに、救急隊員が傷病者の傷病程度を判定するため、観察基準表を導入し、救急医療体制の強化に努めているところでございます。

今後の対応につきましては、現在加入しております茨城県北メディカルコントロール協議会と水戸地区救急医療協議会を通じ、各医療機関との連携体制を密にし、円滑な救急体制の確立に努めてまいります。また、平成22年7月から運用しておりますドクターヘリコプターにつきまし

でも有効に活用し、救命率の向上に努めてまいります。

○後藤守議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 ジオパーク活動事業についてのご質問にお答えいたします。

初めに、ジオパーク事業の現状と推進状況についてですが、県北地域の地層や地質を活用して地域の振興や経済の発展を図るため、茨城大学が中心となって平成22年2月、日本ジオパークの登録に向けた茨城県北ジオパーク推進協議会を設立いたしました。現在、自然や歴史が残る那珂川から北部を中心に、茨城大学を事務局として、本市を初めとする7市町村、グリーンふるさと振興機構の合わせて9団体で、ジオパーク事業に取り組んでいるところでございます。

本市ではこれまでにジオパーク事業について、平成22年8月に新聞報道された長谷町の日本最古の地層の概要を広報紙で連続して紹介させていただきました。また、市民交流センターにおいて、市民向けの説明会の実施やJR常陸太田駅駅舎、市役所1階に古代地層の標本展示をしたところでございます。協議会では、事業推進案内人であるインタープリターの養成、本市では竜神峡を含む棚倉断層等のジオポイント看板の設置、ジオパークに関する情報を発信するためのホームページの開設、ポスター等の作成、試験的なジオツアー等を行ってきております。

これらの取り組みにより、本市の棚倉断層を初め、五浦海岸、袋田の滝などが、平成23年9月に日本ジオパークに認定され、茨城県北ジオパークとして登録されたところであります。今年度は広報、商品開発、ジオツアー、インタープリターの専門部会を設置し、運営体制の強化と推進計画を策定しているところであります。

続きまして、今後のジオパーク事業の推進事業についてのうち、ジオポイント、ジオサイトの調査、登録の状況についてでございますが、当市は棚倉断層を初め、長谷町から日立市周辺につながっているカンブリア紀の古代地層が登録されております。今後は茨城大学を中心に、本市におけるジオサイトとして活用の期待できる、価値のある新たなスポットの調査とその登録に向けて努めてまいります。

○後藤守議長 産業部長。

〔井坂孝行産業部長 登壇〕

○井坂孝行産業部長 ジオパーク活動事業についてのご質問にお答えいたします。

1つ目のジオパークの活用につきましては、今年度実施しております緑の分権改革事業の中で地質資源の見直し、発掘を行い、着地型体験交流旅行商品の開発に取り組み、地域ならではの魅力を再認識し、他の地域と差別化される資源として、竜神峡、棚倉断層、カンブリア紀の地層、鍋足山等をジオスポットという新たな観光資源と捉え、既存の観光資源と組み合わせた新たな旅行商品としてモニターツアーを実施しております。

東京・中野区民を対象としたかかしづくりと日本最古の地層ロマン、早稲田塾の生徒を対象とした地層ロマンと里山食文化体験、女性にターゲットを絞った山ガールミートイン鍋足山、観光物産協会会員を対象とした常陸太田地層ロマンジオめぐりなど4つのモニターツアーを実施し、約100名の参加を得たところであります。ただいま申し上げましたモニターツアーには、イン

タープリターとして、茨城大学地質情報活用プロジェクトの学生がジオについての詳細な説明を行っております。また、その他のモニターツアーでのアンケートにおいても、ジオスポットについては高い関心を持たれております。

2つ目のジオサイトの案内人の育成につきましては、茨城大学が主催の茨城県北ジオパーク案内人養成講座を受講しました12名の方がジオネット常陸太田を立ち上げ、定期的な情報交換や勉強会を開催し、5月には竜神峡ジオツアーハイキングを計画するなど積極的な活動を行っており、市としましてもジオネット常陸太田の活動を支援し、ツアーガイドとして活躍、活動ができるよう、担い手の確保や育成に努めてまいります。

3つ目のPR、広報活動の取り組みにつきましては、茨城県北ジオパーク推進協議会等が作成したパンフレットやポスター等を市内の学校等に配布するとともに、観光物産協会のホームページ等で紹介するなど広報活動に努めております。市としましては、今年度「ジオパークって何」と題するテキストを作成しましたので、本市のジオスポットを小中学生に対して紹介するとともに、教育旅行における学習の資料及びジオツアー等におけるテキストとして、ジオスポットの魅力を発信してまいります。また、市民向けには、代表的な体験メニューの紹介及び案内人等の募集を兼ねた「実はすごいんです常陸太田」のパンフレットを作成し、全戸配布をしております。

さらに、市外からの誘客を図る上で、体験プログラム総合ガイド常陸太田や常陸太田満喫体験ツアーのパンフレットを作成し、ジオスポットを盛り込んだ旅行商品の紹介を行ってまいります。今後につきましても、当市に点在するジオスポットを積極的にPRするとともに、着地型の体験交流旅行商品の開発に取り組んでまいります。

以上です。

○後藤守議長 鈴木議員。

〔5番 鈴木二郎議員 質問者席へ〕

○5番（鈴木二郎議員） ただいまご答弁ありがとうございました。2回目の質問をさせていただきます。

1点目の地域医療についてでございますが、1点目の医師の確保及び医療機関の整備充実の対応の現状については、理解をいたしました。しかしながら、現実的には県北地区の医師不足は解決されず、厳しい状況にあります。将来の医師を目指す医学生の臨床研修においても、県内充足率50から60%と低調にあることやつくば等の県南志向等の地域偏在化が見られ、改善基調の傾向にないように思われます。このような中であって、改善を図るためには行政としても効果的、具体的な施策に向けて、積極的に取り組むことが大変重要ではないかというふうに考えます。

他市におけるちょっと事例を紹介しますと、神栖市ではUターン医師支援制度と称しまして、市内近隣出身のお医者さんが市内の医療機関に常勤講師として勤務した場合は、3年間奨励資金を交付したり、修学資金の貸与制度によりまして、将来市内の医療機関に勤務し、地域医療に貢献する意思のある学生に対して修学資金を貸与し、卒業後、市内の医療機関に従事した場合は返還を免除するというようなことで、医師確保に取り組んでいるというようなところであります。

その他自治体においても、県の大学と、これは筑波大だと思うんですが、連携によって、医師

不足地への非常勤講師の派遣とか、大学への寄附講座に参加することによって医師の派遣等に取り組んでいるということでございます。そしてさらには、先ほどもお話がありましたけれども、地域医療機関や医師会、大学等との情報交換、連携協力によりまして、医師の確保とか経営の効率化、病院の整備、耐震化とか、医師の研修、スキルの向上等の諸課題対応についても情報を共有して、連携協力体制の強化構築を進めることも肝要と思います。

そこで、2点ほど再質問させていただきます。

1点目は、以上のような行政としての一歩踏み込んだ具体的な取り組み、支援対応について今後どのように考えていくのかお伺いをいたします。

○後藤守議長 答弁を求めます。保健福祉部長。

○埴信夫保健福祉部長 医師を確保するための支援制度、奨学金の制度のようなものかと思います。幾つかの自治体、それから茨城県などでそういう制度が動いていることは承知しております。近くでは常陸大宮市とか、今お話ありました神栖市の例があるとは思いますが、それらの制度については、成果の確認という意味では一定の期間が必要ではないか。そういう確認をしながら、有効性について今後の推移を少し見守ってみたいなと思います。ただ、議員ご発言のように、その他の施策についても多々あるかと思います。医療体制を連携する市町と県、医師会などと連絡をとりながら、事業内容についてこの先調査していきたいと考えております。

○後藤守議長 鈴木議員。

○5番（鈴木二郎議員） ご答弁ありがとうございました。いろいろ成果等も勘案しながら、検討しながら、今後、計画の中でご検討をぜひ進めていただければというふうに考えております。

2点目でございますが、行政として、いろいろ今お話ししましたような整備充実の支援サポートを進めていくためには、いろいろな交渉や連携、協力、情報の収集と、多くの仕事を効果的、効率的に進めていかなきゃならないと思います。そういうことから、やはり専門的に対応することが必要だと思います。専任の部署あるいは専任担当者を置いて、分掌業務を明確にしてある程度対応していくべきであろうというふうに考えますけれども、ここら辺の考え方についてご所見をお伺いいたします。

○後藤守議長 答弁を求めます。保健福祉部長。

○埴信夫保健福祉部長 現状の体制の中でどうするかということになるかと思いますが。そういう意味では、取り組むべき内容、業務を明確に位置づけまして、医療体制を連携する自治体、茨城県初め、先ほど話しましたように、医師会など関係機関と連携を密にすることで、実効性のある業務ということで進めてまいりたいと考えております。

○後藤守議長 鈴木議員。

○5番（鈴木二郎議員） ありがとうございました。

やはり地域医療を改善して、医師の確保、医療機関の整備を進めるためには、地域で育てるという意識を持って行政が積極的に関与し、支援することが必要な時期にあると思います。情報の共有化と関係機関との連携協力が重要と考えます。今後ともそれらの計画を策定して、計画的に進めて、取り組んでいただきますよう要望をいたします。

次に、２点目の常陸大宮済生会病院の運営状況の、１つ目の診療実績、経営状況、補助金等の状況につきましては理解をいたしました。２つ目の医師、診療科目の課題につきましては、科目によって医師不足の課題があります。緊急医療体制を進める上でも対応が必要ということでございますが、要望としまして、常陸大宮病院は県北西部の中核病院として、当市においても金砂郷、水府、里美の各地区を初め、多くの市民に利用されていることもありまして、医師確保や自立運営化が図られるよう５市町での連携を深め、しっかりと支援サポートして対応していただきますよう要望をいたします。

次に、ジオパーク活動について２回目の質問をいたします。ジオパーク活動の１点目の、ジオパーク活動事業の推進状況については理解をいたしました。ジオパーク活動についてはいろいろと取り組んでおり理解いたしましたが、１点質問させていただきます。

今後それぞれジオパーク活動については計画されておるということで、今もいろいろと活発な活動をされておるんですが、やはりこれからはジオスポットまでの道路の環境の整備ですね。道路の整備やお客さんを案内する看板やトイレ等周辺の整備、こういうことがやはり必要になってくるんじゃないかと思うんですが、この対応についてどのように考えておるのか、お伺いをいたします。

○後藤守議長 答弁を求めます。産業部長。

○井坂孝行産業部長 道路及び案内板や誘導板、あるいはトイレ等の設置や整備であります。長谷町のカンブリア紀の地層につきましては、国有林であり、森林管理署での管理であります。また、道路の整備につきましても、地元の協力が必要であるということから、今後関係機関や関係部課等と協議、検討してまいりたいというふうに考えております。

○後藤守議長 鈴木議員。

○５番（鈴木二郎議員） ぜひ道路の整備、それから周辺の整備を進めていきまして、お客さんがぜひ太田に新しい観光の切り口として来町いただけますよう、よろしくお願いいたしたいと思います。

それから、ちょっと前後しちゃったんですけども、先ほどの緊急医療体制の現状と対応は理解いたしましたのでよろしいと思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。